

研究区分	教員特別研究推進 国際共同研究・国際交流の促進
------	-------------------------

研究テーマ	マレーシアマラヤ大学との大学間協定締結を志向した研究交流促進				
研究組織	代表者	所属・職名	薬学部・教授	氏名	竹内 英之
	研究分担者	所属・職名	薬学部・助教	氏名	紅林 佑希
		所属・職名	薬学部・准教授	氏名	高橋 忠伸
		所属・職名	薬学部・客員教授	氏名	南 彰
		所属・職名	マラヤ大学マッシュルームリサーチセンター・センター長	氏名	Vikineswary Sabaratnam
		所属・職名	Department of Pharmaceutical Life Sciences, Faculty of Pharmacy, University of Malaya	氏名	Phan Chia Wei
	発表者	所属・職名	薬学部・教授	氏名	竹内 英之

講演題目	マレーシアマラヤ大学との大学間協定締結を志向した研究交流促進
研究の目的、成果及び今後の展望	<p>生化学分野ではこれまでに、ヤマブシダケが更年期の骨代謝低下を改善することや、エリンギが更年期の認知機能低下やうつ症状を改善することを見出してきた (Morita et al., Clin. Exp. Obst. Gynecol., 2020; Minami et al., Biol. Pharma. Bull, 2013)。これらの研究成果は、マレーシアのマラヤ大学マッシュルームリサーチセンター長 Sabaratnam 教授との共同研究によるものである。これを基盤に、本学とマラヤ大学との部局間協定を締結した (2019 年)。現在、共同研究を加速させることにより、マラヤ大学との大学間協定の締結を目指している。このような背景から、新たなマレーシア産機能性食品の共同開発を開始することとなった。ここでは、マレーシア発祥で伝統的に免疫賦活化薬として活用されているタイガーミルクマッシュルームを利用して、更年期の神経症状を改善する機能性食品の開発を行った。卵巣機能の低下に伴うエストロゲン欠乏は、閉経後骨量減少の他に抑うつや物忘れなどの精神神経症状を引き起こし、生活の質を著しく低下させる。更年期障害の治療にはホルモン補充療法が広く使用されているが、精神症状や認知機能の低下に対しては十分な効果が期待されていない。そこで本研究では、更年期障害モデルラットが示す認知脳低下に対するタイガーミルクマッシュルームの作用を検討した。更年期障害モデルラットの脳に蓄積する非ヒト型シアル酸分子種の量はタイガーミルクマッシュルームの摂取によって改善しなかった。現在、共同研究者とともに、更年期症状を改善することのできる東南アジア由来の天然素材を新たに探索している。本国際共同研究を通じて、マラヤ大学との緊密な連携を維持しており、マラヤ大学との協定を部局間から大学間へと移行し、新たな大学間協定の締結を目指している。部局間協定に基づいてマラヤ大学より Mad Anuar 氏が大学院博士後期課程に進学し、2023 年に当分野において博士号を取得した実績がある。マラヤ大学との部局間協定に基づいてマラヤ大学より大学院博士後期課程に進学する学生の誘致を目指す。</p>